

## はじめに

近年の食料を巡る状況をみると、世界的な人口増加、異常気象による生産減少、途上国におけるライフスタイルの変化、食用作物のバイオ燃料への転用などにより世界の食料需給は逼迫し、農産物の国際価格の高騰や国内の食料品価格等に大きな影響を与え、かつて経験したことのない変化が起きています。また、食品に対する消費者の信頼を揺るがす事件も発生しました。

このように世界の食料需給が不安定性を増す中、国内農業の振興による食料供給力強化の必要性がかつてないほど高まっています。

東北は、北海道に次ぐ耕地面積を有し、我が国の食料供給基地として重要な役割を担っておりますが、農業産出額のうち米の占める割合が高く、米に大きく依存した生産構造となっており、今後、構造転換が必要となっています。

このような状況の中、東北農政局では、水田経営所得安定対策、米政策改革推進対策、農地・水・環境保全向上対策の農政改革三対策の着実な推進を図るとともに、食の安全と消費者の信頼確保、豊かで住みやすい農村の振興などに取り組んでいます。

このような最近の動きを踏まえ、「東北の食料・農業・農村情勢報告」では、第1部で東北食料・農業・農村の動向として、東北地域の農業生産、農地、農業経営など現状のデータに基づいて整理しました。また、第2部「特集」として、東北の農山漁村活性化の現状と今後の取り組みについて取りまとめました。

本報告書が、東北地域の食料・農業・農村の現状と課題について、御理解頂く一助となれば幸いです。

平成21年2月

東北農政局長 宮坂 亘